

C-1 指導案

第2学年 美術科学習指導案

1. 題材名 人物を描こう

2. 題材の目標

題材の目標	<p>① 自分自身の素直な感じ方を大切にして表現のねらいを考え、主体的に取り組もうとする。</p> <p>② モデルの特徴をとらえながら、観察の仕方を工夫し自分らしく豊かに構想することができる。</p> <p>③ 対象の内面や雰囲気など心豊かに感じ取り、効果的な表現方法を工夫しスケッチしていく過程を通して、表現の仕方を身につける。</p> <p>④ 自他の作品を通して、作者の意図や表現の工夫を感じ取り伝え合い、多様な表現のよさや美しさを味わい深めることができるようにする。</p>
-------	--

3. 指導に当たって

<題材観>

本題材はコンテを使用した人物画の制作である。美術に対して苦手意識を持っている生徒の声を聞くとデザインや工芸は好きだが、絵を描くのは苦手だと言う。理由の大半は「本物らしく描けない」というような写実的な志向や技術面での力不足などの悩みを抱えている。

そこで、本題材では題材の流れとしてまず、人物クロッキーを行う。基本的な技能習得とともに、自信を持って制作でき、向上したという自覚を持つことができるように配慮した。特徴をすばやくとらえることから始まり、描きながら見る、見ながら描くといった行為を通して、対象の美しさや特徴をとらえて表現できるように10分間クロッキーを取り入れた。

次に宮本三郎作品「舞妓」の絵を鑑賞する。「表現の能力を高める鑑賞」と「感じ取る力を育てる鑑賞」に重点を置き、対象をじっくり観察して、見ながら描いていたクロッキーから、更に心に写るように豊かに感じ取ることを知り、画家の意図やモデルから受ける印象や心の内面に目を向けることができるようにした。

これらを経験したあと、「ポーズをとる友達を描こう」に取り組むことで、友達の人柄や個性を生き生きと伝えていくことができると思われる。そしてその人らしさを表す工夫を重ね、自分らしい表現によさや価値を感じ取ることができるようにしていきたい。

<生徒の実態>

2年生は2クラスで1組22人2組23人計45名である。美術に関心のある生徒は多いが、人物を描くことは小学校4年の時に自分の顔を描いたという程度で、あまり経験がない。特に人物を描くことに抵抗を持っている。原因はうまく描きたいが似たように描けないし、下手な絵なら描きたくないという気持ちがある。

そこで描いていくうちにどんどん上達するということを体験させることで、自信や意欲を持たせたい。またクロッキーはモデルを必要とし、クラス全員が何らかの形でモデルになるので普段の授業とは違うクラスの一体感を味わうことができる。モデルになる人を見ながらみんなで向きやポーズを考えたり、お互いの作品を見合ったりすることに、この学年は抵抗なくスムーズに入ることができ、和やかで楽しくクロッキーをすることができると思われる。

<指導の手だて>

人物画は苦手と考えている生徒のために、初めに今までの既成概念やイメージでとらえていた人間を全員で描いて黒板に貼りだし鑑賞する。その時点では個人差はあまりなく<1号>として残しておく。そこからねらいをおさえてスケッチして積み重ね継続していく中で、少しの向上でも賞賛するなどして励ますことで、自己の向上が分かり自信や次への意欲へと高めたい。向上のあとが見えるように作品を綴り、振り返りの時間もとることにした。

クロッキーでは技能面が不十分な生徒に対しては、正面向きや横向き座りの輪郭をとったプリントを渡し、輪郭をなぞりながら体のバランスや比率に気づくことができるように、ひとり一人のレベルに応じてわかりやすく指導する方法を工夫していきたい。

人物画鑑賞では、より生き生きと手に取るように思いが感じ取られるようにと宮本三郎美術館にアートデリバリーをお願いした。鑑賞の授業は資料の準備や教材研究が大変であるが、学芸員から資料を提供していただいたり、美術館の方との打ち合わせのなかで違った視点や明確なねらいが見えてきた。

今回の授業で、絵の表面的な美しさだけではなく、その表現に込められた作者の意図や工夫を感じ取ることができるようになったら、後日に宮本三郎美術館を訪問したい。そこで、いろいろな人物画や技法の方法などへと視野を広げていきたい。「ポーズをとる友達を描く」コンテの作品は、美術館主催の人物画展に応募予定である。また次は宮本三郎の生い立ちにも触れ「作品や作家、文化理解のための鑑賞」へと深めていきたい。

本時の鑑賞は人物クロッキーで学んだ基礎的技能のスケッチの仕方のあとに、表現には更に作者の思いがあり、作者の心情や意図など込められていることに気づかせるねらいがある。

次の友達のスケッチや3年への自画像に向けて自分の内面へと思いを深めさせたい。

また、今年は地元の作家の宮本三郎生誕100年ということで、表現と鑑賞の相互の関連を意識して年間計画をたててみた。

4. 題材の評価規準

次	学習内容及び学習活動	①美術への関心・意欲・態度	②発想や構想の能力	③創造的な技能	④鑑賞の能力
一 5 時 間	○人物クロッキー ・正面、横向きの体の流れを知る。 ・体の比率を知る。 ・人体の骨格を知る。 ・ポーズを決めて友達をクロッキーする。	対象をよく見る大切さに気づき、描くべきポイントをすばやくとらえ、描画の基礎的表現方法を意欲的に行おうとする。	対象の形や特徴をとらえようと、クロッキーをしながら、観察の仕方を工夫することができる。	対象の形や特徴を的確にとらえ、クロッキーをすることができる。	自他の作品の変容をたどり、互いの進歩や成長の跡を感じ取り、自他の作品のよさを味わい深めることができる。
二 1 時 間	○宮本三郎の作品鑑賞 ・「舞妓」を鑑賞する。 ・ワークシートに感想を書き込む。 ・美術館の方のお話を聞く。 ・新たに気づいたことを発表する。	自分の見方や感じ方を大切にし、関心を持って鑑賞し、素直な感想を述べようとする。 美術作品との出会いをこれからの生活に生かそうとする。			絵から感じとったことを伝え合い、表現の新たな視点や発想を見つけ、作者の心情や意図、想像力の豊かさを感じ取り、見方を深めようとする。
三 3 時 間	○ポーズをとる友達を描く ・モデルを観察する。 ・ねらいを明確にする。 ・ポーズ構図を練る。 ・スケッチする。 ・自他の作品を鑑賞する。	・モデルの表情やしぐさの特徴に気づき、表現のねらいを考え主体的に取り組もうとする。	・モデルの表情やしぐさをとらえ、どのように描くか対象の内面や雰囲気を追求め、構想を練ることができる。	・構図やプロポーションを考え、立体感や陰影をコンテの濃淡で描き、工夫改善することで自分らしい表現を深めることができる。	・自他の作品から表現意図の工夫や多様な表現のよさを感じ取ろうと深めることができる。

5. 本時の学習 宮本三郎の人物画「舞妓」鑑賞 (本時は第2次の1時)

(1) ねらい

- ・人物表現への興味と関心を高め、作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、理解や見方を深める。
- ・地域の美術館に親しみを感じ、実物の作品との出会いをこれからの生活に生かそうとする。

(2) 学習の展開

配時	学 習 内 容 と 活 動	教 師 の 支 援 と 評 価 ○支援 ◎評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・宮本三郎美術館の紹介 美術館のポスターなどを見る。視点① ・鑑賞と発表の仕方のマナーについて知る。 作品にふれない 自分の感じたことを素直に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域にある魅力的な美術館に関心が持てるように、美術館のポスターや絵はがきを掲示する。 ○知識だけでなく、自分の感じ取る心を広げ深められるように、皆の感じたことを大切に、理解し合う態度が必要であることを促す。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・宮本三郎作品 油彩画 「舞妓」の鑑賞 ・実物の絵を見て直感的に感じ取ったことを話す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>絵から感じ取ったことを伝え合おう。視点②</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に近寄ってじっくり観察する。視点① <p>見えてきたことをワークシートに書き留める。視点④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画「舞妓」の説明を美術館の方から聞く。 舞妓の職業について 木版画の説明 宮本三郎の生い立ち ・2枚の絵を鑑賞した感想を書く。視点③ 	<ul style="list-style-type: none"> ○難しい言葉でなくても直感的に感じたことを安心して伝えることができるように配慮する。 ○なかなか言葉が出てこない生徒にはモデルと対話するように、せりふの吹き出しを考えさせる。 ◎自分の見方や感じ方を大切にし、関心を持って鑑賞し、素直な感想を述べようとしているか。 観点1 (観察 発言) ○鑑賞の視点が深まっている発言やしぐさに気を配り評価する。 ◎絵から感じとったことを伝え合い、表現の新たな視点や発想を見つけ、作者の心情や意図、想像力の豊かさを感じ取り、見方を深めようとしているか。 観点4 (観察 発言 鑑賞ワークシート) ○生徒のつぶやきや、それぞれに違った感じ取り方をしている発表でも受容し、皆で対話を大切にするように配慮する。 ◎地域の美術館に関心を持ち、これからの生活に生かそうと考える。 観点1 (観察 発言 鑑賞ワークシート) ○数人の感想を読み、他は後で美術通信に載せそれぞれ感じ取ったことを大切にする。
終末 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を振り返る。 ・次時の課題を見つける。 ・後かたづけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次時の「ポーズをとる友達を描く」では、自分が伝えたい思いやねらいをはっきり絵で表現することが大切であることを促す。